

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校 奈良市立鶴舞小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒631-0021

E-mail tsurumai-e@naracity.ed.jp

Website http://www.naracity.ed.jp/ele02/index.cfm/15.html

幼児児童生徒数 男子 122 名 女子 142 名 合計 264 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「鶴舞から世界に羽ばたくグローバル人材の育成をめざして」を学校理念として、キャリア教育・ESD の理念に基づく教育活動の推進を今年度の重点目標と捉え、ESD の実践を通して「確かなつながりの中で自ら学び・自ら考えたくましく未来を切り拓く子どもの育成」と目標としている。

具体的には、「ぼうけんの森」再生事業を中心とした環境教育、天平時代の甘味料「あまづらせん」再現活動を中心とした世界遺産学習、避難所キッズスタッフ活動を中心とした防災教育、株式会社「鶴舞フラワー」の活動を中心とした持続可能な生産と消費を考えるキャリア教育などの教育活動を行った。

① 「ぼうけんの森」再生事業を中心とした環境教育

53 年前の開校当時、ただの斜面だった場所を「憩いの森」にしようと植樹が始まったが、40 年の間に木が生い茂り立ち入ることができない森となってしまった。約 10 年前より、森の整備が子どもたちの手により少しずつ進み、栗拾いや自然観察・野鳥観察ができる森となってきた。ふるさと納税を活用し、子どもたちから活用プランや設計図を募り、再生工事が始まった。

この「ぼうけんの森」で学んだことを5年生がプレゼンテーションソフトを使って保護者や下級生に向けて発表した。

② 天平時代の甘味料「あまづらせん」再現活動を中心とした世界遺産学習

奈良女子大学の前川先生のご協力を得て、天平時代の甘味料「あまづらせん」を「ぼうけんの森」や奈良女子大学に自生しているツタの樹液を取り出し、再現する活動をおこなった。「あまづら」は、長屋王の邸宅跡から出土された木簡にも記載があり、世界遺産のあるまち・奈良の素晴らしさを内外に発信できるようにパンフレットを作成した。また天平祭りでも発表した。

③ 避難所キッズスタッフ活動を中心とした防災教育

災害時に避難所となる本校において、子どもたちが支援される側ではなく、支援する側になることによって、要支援者への手厚い支援が可能になる。地域自主防災・防犯協議会と連携し、5年生・6年生に対して避難所の仕組みの学習を行った後、子どもたち一人一人が自らできる活動を考え、パンダナに記載するという取組を実施した。

④ 株式会社「鶴舞フラワー」の活動を中心とした持続可能な生産と消費を考えるキャリア教育

地域教育協議会コーディネーターと連携し、花を育てドライフラワーを作り商品化や花の苗を販売する活動を株式会社形式で行った。株式の発行、仕入れ、原価計算、売価決定、販売までの宣伝・準備、販売当日の役割分担、売上金計算、利益計算、株主への配当としてのプレゼント作りなどを行った。



①「ぼうけんの森」プレゼンテーション



②「あまづら」再現 ツタの樹液抽出作業



③避難所キッズスタッフ できる支援を考える



④株式会社「鶴舞フラワー」販売準備

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 休み時間・土曜日等学校休業日)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

教科書、資料集、ユネスコのHP、ユニセフのHP
地域ボランティア手作りの教材等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

これまでの教科等の年間計画の中で行ってきたことをESDの視点で再検討することで無理なく実施できるように努めた。
総合的な学習の時間の年間計画に位置付けることで、教科横断的指導ができるようにし、地域と連携し外部の指導者を活用することで、これまで学校ではできなかった指導内容を実施できるようにこころがけた。
特に今年度からはコミュニティ・スクールとして指定されたこともあり、学校運営協議会の場で教育課程を説明することにより、ESDの理念に基づく教育活動の意義がより明確になった。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学年2学級、特別支援学級を入れても全15学級の小規模校のため、校内の組織においては特別の委員会等を設けずに、主に総合的な学習の時間の取組を中心に実施した。
学校運営協議会や地域教育協議会、連合自治会、民生・児童委員、社会福祉協議会などの組織と連携することで、地域の教育力をできるだけ取り込むように工夫した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校内では学校評価自己評価の中で実施した。外部評価として、学校運営協議会で学校関係者表として、本校の取組について評価していただいた。ただ、ESDについて特化した評価をおこなう時間的なゆとりがないのが現状であり、評価の質を担保する必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ホームページによる発信が中心になっている。ホームページへのアクセスが年間10万回を超えていることもあり、活動内容そのものへの理解は進んでいるものと思われる。今後は、ESDの理念に基づき教育活動を推進していることをもっと明確に発信できるように改善したい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

奈良女子大学、近畿大学との連携においては、専門家からの指導を受けることができた。地域コミュニティとして、学校運営協議会や地域教育協議会、連合自治会、民生・児童委員、社会福祉協議会などの組織と連携し、地域の教育力をできるだけ取り込むように工夫した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本年度、コミュニティ・スクールの指定、起業家教育推進事業の指定、「ぼうけんの森」の再生事業と大きな3つの事業を実施したために、国内外のユネスコスクールとの交流を考えるゆとりがなかった。今後、国内外の優れた取組から学び、本校の教育活動を改善していくためにも交流やネットワーク形成について取り組めるようにしていきたいと思う。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

一つ一つの学習や活動は、そのねらいをしっかりと達成できていたが、学校の特色となるものとなり切れていなかった。しかし、ESDの理念に基づき、学習や活動の関連性や系統性を考えていく中で、次第に本校の特色となるものが少しずつはっきりとしてきた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ①「ぼうけんの森」を中心とした環境教育
- ②天平時代の甘味料「あまづらせん」再現活動を中心とした世界遺産学習
- ③避難所キッズスタッフ活動を中心とした防災教育
- ④株式会社「鶴舞フラワー」の活動を中心とした持続可能な生産と消費を考えるキャリア教育

上記の4つの活動を平成30年度も引き続き実施する。

これらの活動だけでなく、修学旅行と関連した人権・平和教育、本年度、特別支援学級児童が作詞作曲した「君の代わりはだれもない」「僕らの夢は無限大」の2曲を活用し、全校で人権学習や共生教育に取り組んでいく。また、地球市民としての在り方をユネスコやユニセフ、国際連合などを学習するなかで、自分事と考えられるグローバルシチズン教育に取り組んでいきたい。これらの学習内容は、これまでも実践していたが、ESDの理念に基づく教育となるように指導内容を改善していくことが大切であると考える。